今月の御教え

氏子は神の守りをしておる者を神と心得て参詣する。守が留守なら、参詣した氏子は、今日はお留守じゃと言おうが。神の前をあけておくことはできぬ。万事に行き届いた信心をせよ。常平生、心にかみしもをつけておれ。人には上下があるが、神には上下はない。人間はみな同じように神の氏子じゃによって、見下したり汚がったりしてはならぬぞ。

……金光教祖御理解　第九十三節……

解説　この御理解も『取次者』に対する心得を説かれた御教えであります。

この道の『取次』とは、本部広前金光様に神習い、生神金光大神取次の手代わりとして、参拝する氏子の難儀、願いを神様に取次ぎ、そして神の御心を氏子に伝える厳粛な御用であります。故に『取次者』が、度々、教会を閉めて他出たり、長時間、広前を空けて他のことをしているようでは、参拝者にとっては、神様が、留守をされているように思われ、力を落として心淋しく帰らざるを得ないことになるのであります。

又、「常平生、心に裃(かみしも)をつけておれ」とのことですが、教祖様の御時代には、婚儀、葬儀などの厳粛な行事には、当事者や主だった者は裃をつけて臨んだとの事でありまして、神様の守をさせて頂いている取次者は、そのように「何時も裃を付けたような、改まった心持でおれ」とのことであります。

但し、『上下(かみしも)』と言いましても人間は、神様から見れば、みな同じ神の氏子でありますから、決して「家柄や地位、学歴等で、上下(かみしも)を付けぬように肝に銘じておくように」との訓戒であります。